



V3 達成!

全国高校男子ソフトボール選抜大会優勝

大村工業高校 ソフトボール部

全国の頂点に立ち、前人未踏の3連覇を成し遂げた選手たちに拍手喝采

全国高校男子ソフトボール選抜大会が、3月21日から静岡県富士宮市で開催されました。我々が長崎県代表として出場。トーナメントを勝ち抜き、見事史上初の3連覇を成し遂げました。

●1回戦

櫻田投手が大会新19奪三振

初戦は、緊張感が漂う中、大阪府代表の上宮高校と対戦。初回2死二塁で、バッター潟手選手の右中間を破る先制の三塁打で、チームが勢いに乗る。一方、エース・櫻田投手は初回から8人連続で空振り三振を奪うなど、終わってみれば1安打完封。大会初の19奪三振と見事な活躍だった。

※結果 5―0で快勝

●2回戦

大石捕手が攻守で活躍

2回戦は、強豪・群馬県代表の新島学園高校と対戦。初回に大石捕手のヒットなどで2点を先行したが、三回にストライクゾーンの狭さに苦しむエース・櫻田投手が3点を失点。しかしその裏、大石捕手、櫻田投手の連打などですぐさま逆転。その後は大石捕手のリードが光った。

※結果 5―3で勝利



●3回戦

投打がかみ合う

3回戦は、福井県代表の啓新高校と対戦。この試合は櫻田投手を温存して豊本投手が先発し、先村投手がリリーフ、好投した。一方、打線も好調で、着実に得点を重ねて相手を寄せ付けなかった。

※結果 7―0で快勝

●準々決勝

チーム打線が爆発

準々決勝は、地元・静岡県代表の飛龍高校と対戦。初回から打線がつながり、2点を先制し流れをつかんだ。三回まで毎回得点し、五回にも潟手選手が右中間を破る三塁打を放った。上位打線に加え、下位打線も好調で大量得点で勝利した。

※結果 6―1で快勝



▶1 3連覇を果たし宙を舞う山口監督 ▶2ベンチから走り出し決勝戦の試合に向かう選手たち ▶3最高のピッチングで三振を奪うエース・櫻田投手 ▶4固い守備で内野を守る後田選手 ▶5ガッツポーズでホームに向かう永村選手 ▶6会心の当たりでヒットを量産する先村選手 ▶7攻撃前に精神統一する選手たち ▶8グラウンドでプレーする選手たちとともに応援席で戦うチームメイト

※写真提供：大村工業高校



▼山口義男監督から

優勝して3連覇が達成できて、とてもうれし。また、19奪三振の

※結果 7-0で圧勝

を成し遂げた。

三回まで無得点だった打線は、四回に2点、五回には一気に5得点を挙げ、五回コールドゲーム。圧倒的な強さで大会史上初の3連覇を成し遂げた。

●決勝
王者の貫禄

決勝は、昨年と同カード・兵庫県代表の滝川高校と対戦。エース・櫻田投手は、準決勝に引き続きの連投だったが、強気の投球に加え、大石捕手の好リードで最高のピッチングを見せた。準決勝を合わせると2試合、11回を1人で投げ抜き、22三振を奪った。一方、三回まで無得点だった打線は、四回に2点、五回には一気に5得点を挙げ、五回コールドゲーム。圧倒的な強さで大会史上初の3連覇を成し遂げた。

●準決勝
相手を寄せ付けけないコールドゲーム

準決勝は、千葉県代表の敬愛高校と対戦。立ち上がりからエース・櫻田投手が9者連続三振。二塁を踏ませない好投を見せた。一方、打線も好調を維持し、回を追うごとに得点を重ね、六回で9得点を奪い、コールドゲームで勝利した。

※結果 9-0で圧勝



▼先村翼主将から

大会新記録も残せた。今後は高総体、インターハイ、そして地元開催のがんばらんぼ国体で結果を残せるよう、さらに練習を積み重ねていきたい。

夢は始まったばかり

全国大会では、二試合一試合、相当地な緊張感の中でプレーし、そこで得た経験は人生の宝となり、今後につながることは間違いありません。

彼らは、大村市民をはじめ、長崎県民の誇りであり、心から「おめでとう」「ありがとう」と拍手を送りたい。

取材中、選手たちがそろって口にするのは、優勝したことよりも

たくさんの方のおかげで優勝することができてうれしい。試合ではチームの一人ひとりが自分の役割を果たし勝利することができた。この結果に満足することなく、次の目標に向かって気を引き締めて努力していきたい。



次の目標のことばかり。意識の高さがうかがえた。

高総体、インターハイ、そしてがんばらんぼ国体。彼らの夢は始まったばかり。

市民の皆さん、今後も彼らの活躍から目が離せません。一緒にエールを送り、応援しましょう。彼らの夢の続きとともに！

